

目次

教育方法42

まえがき

深澤広明 3

第 I 部 教育改革の動向に対応する教師

- 1 PISAの影響の下で、対抗的な教育実践をどう構想するのか
—グローバル化とテクノロジーの高度化の中で— 松下佳代 10
- 1 はじめに 10
- 2 PISAが目指す能力 11
- 3 PISAの日本の教育への影響 15
- 4 PISAのアポリア 17
- 5 対抗的な教育実践をどう構想するか 20
- 6 おわりに 22
- 2 全国学力・学習状況調査の結果を教育実践にどう生かすか
—秋田県トップクラスの要因分析に基づいて— 阿部 昇 25
- 1 全国学力・学習状況調査のとらえ方・生かし方 25
- 2 全国調査で良好な結果を残した秋田県の7つの特徴 27
- 3 発表および話し合い・意見交換を重視した授業づくり 28
- 4 話し合い・意見交換を重視した秋田県の授業の実際 31
- 5 教師集団の研究・研修の仕組みづくり 34
- 6 家庭学習の指導と学校—家庭—地域のつながり 36
- 7 全国の教育実践に生かす試みを 38
- 3 「言語活動の充実」を支える教師の専門的力とは何か
—教師に求められる「言語力」についての—考察— 片上宗二 40
- 1 はじめに 40
- 2 授業者としての教師に求められる「言語力」の枠組み 41
- 3 教科の独自性と言語力の固有性 43
- 4 教師の指導力（授業力）、子どもの学力、言語活動の充実 47

- 5 「書く」という言語活動の質と教師の授業力—国語科の場合 48
- 6 教師に求められるメタ言語力 50
- 7 おわりに 53

第Ⅱ部 教室の多様な子どもに取り組む教師

- 1 発達障害児などの学習困難児に対する教科指導の方法論
新井英靖 56

 - 1 ユニバーサルデザインの授業づくりに対する批判的検討 56
 - 2 言語的・認知的に考え、答える授業から脱却する 58
 - 3 物語を実感するために「視覚化」や「動作化」を用いる 60
 - 4 「読みを共有する」授業の方法 62
 - 5 学習困難児の「わかる」を深める授業展開の要件 65

- 2 インクルーシブな国語科授業を考える
—自閉症スペクトラム障害の学習者の事例から— 原田大介 68

 - 1 インクルージョンの概念が生まれた背景 68
 - 2 学習者のニーズとしての発達障害
—自閉症スペクトラム障害を中心に— 69
 - 3 自閉症スペクトラム障害の学習者の事例から—友輔の場合— 70
 - 4 インクルーシブな国語科授業の条件 73
 - 5 国語教育研究で取り組むべき課題 78

- 3 多様な子どもたちをつなぐ生活綴方の今日的展開
川地亜弥子 82

 - 1 はじめに—日本作文の会の転換 82
 - 2 子どもたちの変化と向き合って—中学校での実践 83
 - 3 不登校のBくんと共に—高学年の実践 86
 - 4 ひらがなの読み書きができない子どもと共に—中学年の実践 90
 - 5 おわりに 93

第Ⅲ部 教育実践を支える教師の養成

- 1 国際動向から見た教職スタンダード 八木英二 98

 1 はじめに 98
 2 教職基準をめぐる大戦後の国際化 99
 3 教職基準の新動向 101
 4 おわりに 108
- 2 教員養成改革の動向 佐久間亜紀 111
 — 「教職実践演習」の意義と課題 —

 1 教育実践演習とは 111
 2 教育実践演習新設のねらいとその背景 113
 3 教育実践演習の意義と課題 118
 4 教育実践演習が提起する問い 122
- 3 学生の省察的探究を支える組織学習の構造 遠藤貴広 125
 — 「教職実践演習」をどう利用したか —

 1 「教職実践演習」実施をめぐる教育方法上の問題 125
 2 教員養成カリキュラム改革の現状 126
 3 協働的な省察的探究の基盤 129
 4 カリキュラム概念の拡張 134
- ## 第Ⅳ部 教育方法学の研究動向
- 1 民間教育実践研究の動向と課題 藤原幸男 140

 1 民間教育実践研究の特質 140
 2 現実を見据えて、新しい視角と言葉で教育実践を切り拓く 141
 3 科学研究の到達点を問い直し、子どもが判断する学びを創造する 143
 4 活動を中心とした授業と省察を中軸とした教育実践研究を目指す 145
 5 子どもの生活現実をとらえ、集団づくりを通して民主的・自治的主体を育てる 147
 6 民間教育実践研究の課題 149